

令和2年度

第37回

公益財団法人

日本中学校体育連盟
研究大会

秋田大会



11/19 木

令和2年

大会運営会場:イヤタカ

主催 / (公財) 日本中学校体育連盟・東北中学校体育連盟・秋田県教育委員会・秋田市教育委員会

主管 / 秋田県中学校体育連盟

後援 / スポーツ庁・全日本中学校長会・秋田県中学校長会・秋田市中学校長会・(公財) 日本教育公務員弘済会秋田支部



あ い さ つ

(公財)日本中学校体育連盟

会 長 三田村 裕

秋田県秋田市は、東北日本海側最大の都市であり、同県の政治、経済、交通の中心都市であります。1997年(平成9年)には、東北新幹線を介して東京駅へ直通する秋田新幹線「こまち」が運行を開始しています。また、秋田空港は国土交通省から空港法第4条に基づく特定地方管理空港の指定を受けています。さらに、八橋・寺内地区を中心として国内最大の油田である八橋油田が広がっています。そのような秋田市において、令和2年度第37回公益財団法人日本中学校体育連盟研究大会を開催すべく準備してまいりました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、誠に残念ではありますが、WEBでの開催と致しました。本大会を共催していただきました秋田県教育委員会、秋田市教育委員会、東北中学校体育連盟、そしてご後援を賜りましたスポーツ庁、全日本中学校長会、秋田県中学校長会、秋田市中学校長会、公益財団法人日本教育公務員弘済会秋田支部の皆さまにお礼申し上げますとともに、主管されます秋田県中学校体育連盟の皆さま方のご尽力に深く感謝申し上げます。

さて、令和3年から完全実施となる新学習指導要領は、部活動について、学校教育活動の一環としての重要性とその方向性を示しています。特に、「将来にわたる持続可能性を踏まえた部活動の在り方」について、「働き方改革」の意義とあわせて留意することが重要です。平成30年4月1日には、スポーツ庁より「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が示されました。全国の中学生が生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するためにもガイドラインの趣旨に則り、運動部活動の適切な運営に取り組むことが求められます。また、「学校教育施行規則の一部を改正する省令(平成29年3月14日文部科学省令第4号)」により、中学校、高等学校におけるスポーツ、文化、科学等に関する教育課程外の教育活動に係る技術的な指導に従事する部活動指導員について、その名称及び職務等が明らかにされ、学校における部活動の指導体制のさらなる充実が図られました。本連盟においては、一昨年度より大会の引率規定を改定し、部活動指導員の導入に着手して参りました。全国的には、その数は増加している状況にあり、今後も増加傾向にあると予測しています。また、近年、情報化や情報化の急速な進展により、社会が大きく変化する中で、日本の教育界においても、Society5.0の到来を見据えた国の教育改革の動きは速く、内容も多岐にわたり解決すべき課題が山積しています。

以上、国の動向や新学習指導要領などを踏まえて、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成、並びに、生涯にわたってスポーツに親しむことができる生徒の育成を求め、運動部活動のさらなる発展を考えなくてはなりません。

このような状況下、本研究大会は平成21年度高知大会より「豊かな人間性と生きる力を育む運動部活動のあり方を目指して」という研究主題を継続し、その内容の深まりと時宜を得た研究の成果に中学校教育に関わる多くの関係者から期待されています。中学校教育が直面する喫緊の課題であり、そのよりよい解決は、全国の中学校に学ぶ300万人あまりの中学生とその保護者も強い関心を寄せている課題でもあります。中学校の指導者として、生涯にわたってスポーツに親しむ基礎づくりに関わることへの重責と誇りを認識し、部活動を通して指導者自ら、人間として学ぶ場にしてほしいと考えます。この研究大会が、よき学びの場となることを期待しております。

結びに、コロナ禍のなか、心温まる大会運営をしてくださった大会関係者の皆さまに改めて感謝申し上げますとともに、本研究大会の成功と全国から参加されております会員の皆さまの益々のご活躍を祈念し、大会のあいさつといたします。

大会要項

- 1 趣 旨 (公財)日本中学校体育連盟 (以下、本連盟という) は、生涯スポーツの充実・発展に資するために、本連盟に加盟する中学校の体育・運動部活動指導者が一堂に会し、当面する諸課題及びこれからのよりよい体育・運動部活動の目指す方向性について、日頃の実践的な研究成果を発表し、研究協議と情報交換をする機会を設けるべく (公財) 日本中学校体育連盟研究大会を開催する。
- 2 主 催 (公財)日本中学校体育連盟 東北中学校体育連盟 秋田県教育委員会
秋田市教育委員会
- 3 主 管 秋田県中学校体育連盟
- 4 後 援 スポーツ庁 全日本中学校長会 秋田県中学校長会 秋田市中学校長会
(公財)日本教育公務員弘済会秋田支部
- 5 日 時 令和2年11月19日 (木) 12:50~16:10
- 6 会 場 【大会運営会場】 イヤタカ
〒010-0001 秋田県秋田市中通6丁目1-13 TEL 018-835-1188
- 7 開催方法 大会誌 (研究紀要・大会報告書) への紙上掲載ならびにZOOMによるWEB会議形式にて実施する。
- 8 参加対象 本大会の参加者は次のとおりとする。
 - (1) 各都道府県中学校体育連盟の代表参加者1名
 - (2) 各分科会の発表者・指導助言者・司会者
 - (3) (公財)日本中学校体育連盟役員 (研究部員を含む)
- 9 研究主題とその内容
 - (1) 研究主題 「豊かな人間性と生きる力を育む運動部活動の在り方を目指して」
 - (2) 内 容
 - ① 研究紀要への掲載
 - ◆ シンポジウム
＜協議題＞「持続可能な学校運動部活動及び中体連大会を目指して」
 - コーディネーター
永沼 崇 氏 (公財) 日本中学校体育連盟 研究部長
 - シンポジスト
小野 功 氏 秋田県中学校体育連盟 陸上競技専門部副委員長
後松 静香 氏 秋田県中学校体育連盟 研究委員
佐原 賢一 氏 秋田市中学校体育連盟 常任理事
福山 健太 氏 秋田県中学校体育連盟 バスケットボール専門部委員長
 - ② ZOOMによるWEB会議形式
 - ◆ 講演 (対談形式)
演 題: 「スポーツの力でみんなを元気に・笑顔に」
講 師: 柳葉 敏郎 氏 株式会社融合事務所 俳優
聞き役: 保泉 久人 氏 スタジオ4.5代表 フリーアナウンサー

◆ 分科会

次のテーマごとに分科会を設け、研究発表及び研究協議を行う。研究協議は分科会ごとに協議題を設定し、グループ協議及び全体協議を行う。

○第1分科会 (組織)

「中体連の組織の運営と競技会の運営」

- ・望ましい中体連の組織の運営について
- ・望ましい競技会の運営について

○第2分科会 (健康安全)

「運動部活動における健康安全管理」

- ・中学生の心身の発達段階に応じた運動部活動について
- ・スポーツ障害の防止を考慮した効果的な運動部活動について
- ・体力向上を目指した運動部活動について

○第3分科会 (連携)

「運動部活動における学校と地域社会の連携」

- ・外部指導者の活用と連携について
- ・総合型地域スポーツクラブ及び地域クラブ等との連携について
- ・複数校合同の運動部活動について

○第4分科会 (諸問題)

「当面する運動部活動に関する諸問題」

- ・競技力向上を目指した運動部活動について
- ・運動部活動の活性化及び運営の在り方について
- ・指導者の資質向上について
- ・大会役員(教員)の服務、勤務及び公務災害の適用について

10 日 程

11 / 19	12:40	12:50	13:00	14:00	14:10	16:10
	WEB会場 (全体会) 入室	開 会 行 事	講 演	休憩・移動 WEB会場 (分科会)入室	分科会 研究発表及び協議 (グループ協議) (全体協議)	各分科会 閉会行事

11 発表者及び提出資料

(1) 研究発表担当都道府県及び順序(発表時間15分程度)

形 式	第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会
研 究 発 表	中国・山口県 東海・岐阜県	九州・福岡県 北海道	近畿・和歌山県 四国・香川県	北信越・富山県 関東・神奈川県
紙 上 発 表	東北・岩手県	東北・宮城県	東北・福島県	東北・山形県
指 導 助 言 者	(公財)日本中体連			
	東北・岩手県	東北・宮城県	東北・福島県	東北・山形県
司 会 者	東北・岩手県	東北・宮城県	東北・福島県	東北・山形県
運 営 責 任 者	秋田県中体連			
記 録 者	秋田県中体連			

*分科会の指導助言は、大会報告書にて紙上掲載する。

(2) 提出資料の種類

① 研究発表担当都道府県中体連からの提出資料

・分科会のテーマに基づいた実践研究の成果

② その他

・都道府県または学校の優秀な資料

(3) 提出資料の取り扱い

上記①・②の各資料を研究紀要としてまとめ、各都道府県中体連・司会者・助言者等には事前に送付する。

(4) 提出資料の作成要領

① 研究発表担当都道府県中体連からの提出資料

資料は、分科会ごとのテーマに沿って各都道府県中体連で特に解決を迫られている課題、かつ将来的にかかるべきとする提言等について、具体的な案をまとめて作成する。分科会のサブテーマとして挙げられているものの中から選ぶか、それに関連するテーマを独自に取り上げてよい。

② 提出原稿について

○ワープロソフト「Word」もしくは「一太郎」を使用する。

○ワープロ規格A4判(横40字×縦36行)により、4枚にまとめる。

○発表で使用するプレゼンテーションソフトは「パワーポイント」を使用する。

・提出原稿の図表等は明瞭なものにする。

・提出原稿は電子データで送付する。

・研究物、資料があれば予め大会事務局を通して参加者へ配付する。

・大会終了後、研究紀要等を(公財)日本中学校体育連盟のホームページに掲載する。

(5) 提出方法

① 発表者の報告 令和2年 6月26日(金)

② 原稿提出期日 令和2年 9月 4日(金)

③ 提出先 大会事務局 〒011-0911 秋田市飯島字田尻堰越48番地
秋田市立飯島中学校内 秋田県中学校体育連盟事務局
TEL 018-845-2780 FAX 018-845-2781
E-mail info@akita-chuta.com

12 参加申込手続について

(1) 申込方法

別紙参加申込要項による。

(2) 申込締切期日

令和2年9月30日(水) 正午必着

(3) 参加費

参加費は徴収しない。

13 その他

(1) (公財)日本中学校体育連盟第2回研究部会の開催

日 時 令和2年11月18日(水) 14:00~16:00

開催方法 ZOOMによるWEB会議形式とする。

(2) 大会参加者に対して、事前の接続確認およびリハーサル(分科会発表・協議)の機会を設定する。詳細日時等については、大会事務局より所属中学校体育連盟事務局を通して連絡する。

秋田大会日程 ~WEB開催~

【11月19日(木)】 大会運営会場:イヤタカ

1 開会行事 12:50~13:00

○ 主催者あいさつ (公財)日本中学校体育連盟 会長 三田村 裕
※ 日程説明 秋田県中学校体育連盟 理事長 永 沼 崇

2 講演 13:00~14:00

演 題 『スポーツの力でみんなを笑顔に・元気に』
柳葉 敏郎 氏(株式会社融合事務所 俳優)
保泉 久人 氏(スタジオ4.5 代表 フリーアナウンサー)

3 分科会 14:10~16:10

第1分科会 『中体連の組織の運営と競技会の運営』

発 表 者	山口県中学校体育連盟 理事長	茗荷谷 武 弘
	岐阜県中学校体育連盟 調査研究委員長	熊 崎 敦 子
助 言 者	(公財)日本中学校体育連盟 副会長	平 本 浩 実
	岩手県中学校体育連盟 研究専門部副部長	江六前 仁 史
司 会 者	岩手県中学校体育連盟 副会長兼研究専門部長	小 林 智 喜
運営責任者	秋田大会実行委員会 運営部	小 森 博 喜

第2分科会 『運動部活動における健康安全管理』

発 表 者	福岡県中学校体育連盟 副理事長	奥 村 彰 啓
	北海道中学校体育連盟 調査研究専門委員	久保田 信 寿
助 言 者	(公財)日本中学校体育連盟 副会長	林 憲 治郎
	宮城県中学校体育連盟 副会長	石 川 一 博
司 会 者	宮城県中学校体育連盟 理事長	菅 原 芳 樹
運営責任者	秋田大会実行委員会 運営部	高 橋 宏 徳

第3分科会 『運動部活動における学校と地域社会の連携』

発 表 者	和歌山県中学校体育連盟 副会長	清 水 步
	香川県中学校体育連盟 研究部長	塚 本 早 紀
助 言 者	(公財)日本中学校体育連盟 副会長	伊 藤 久 仁
	福島県中学校体育連盟 会長	斎 藤 剛 美
司 会 者	福島県中学校体育連盟 副会長	長 沼 政 美
運営責任者	秋田大会実行委員会 運営部	水 谷 浩 紀

第4分科会 『当面する運動部活動に関する諸問題』

発 表 者	富山県中学校体育連盟 研究部委員長	廣 瀬 翔 平
	神奈川県中学校体育連盟 副理事長	中 村 翔 平
助 言 者	(公財)日本中学校体育連盟 副会長	日 置 利 道
	山形県中学校体育連盟 会長	佐 藤 雄 一
司 会 者	山形県中学校体育連盟 理事長	鈴 木 章 人
運営責任者	秋田大会実行委員会 運営部	小 林 英 紀

4 閉会行事(分科会別) 16:10~16:13

○ 閉会のあいさつ 秋田県中学校体育連盟 副会長 佐 藤 俊 之
加 藤 和 彦
加 賀 徹 良
佐 藤 良

基 調 報 告

第37回(公財)日本中学校体育連盟研究大会

秋田大会実行委員会 会長

関 寛

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催は、1年後へ延期が決定しました。熱いスポーツの祭典となるはずだったオリンピック・パラリンピックに向け、新たなスタートを切ることになり、組織の今後の大会までの準備や代表選手の皆さんの1年後を見据えた取り組み、そして決定していない代表選手の最終選考にも注目が集まるところです。社会状況は、まだ終息の兆しが見えていないコロナ禍の中、中学校における運動部活動は、学校教育の一環として、教育課程との連携を図り、さらに意義ある活動として推進していかなければなりません。

公益財団法人日本中学校体育連盟は、昭和60年の東京で行った第1回研究大会で「生涯体育を指向した部活動のあり方」を研究主題として、3つの分科会や講演会を取り入れ、その後の研究大会で、第4分科会の創設、シンポジウムを新しく取り入れて研究大会を実施してきました。同じく平成14年の第18回東京大会では、「生涯にわたってスポーツ活動に親しむ運動部活動を目指して」と研究主題を改め、平成22年第26回高知大会で、現在の研究主題である「豊かな人間性と生きる力を育む運動部活動の在り方を目指して」を掲げ、これまで中学校運動部活動における様々な課題について、各都道府県やブロックを中心に研究を進め、本研究大会において発表・協議される内容は、われわれ中体連関係者に様々な示唆を与えてくれるものとなっています。

現在の中学校の運動部活動を取り巻く環境には、少子化やニーズの多様化、指導者不足や教員の多忙化などの課題があり、今後の全国大会をはじめ各ブロックや地区大会における大会そのものの在り方や今後の持続可能な大会運営はどうあるべきかなど、運動部活動の位置付けに限らず、運営体制も課題となってきました。

本研究大会は、コロナ禍の影響で一堂に会して意見交換を行うことはできませんが、この様な運動部活動における現状について、「豊かな人間性と生きる力を育む運動部活動の在り方を目指して」を研究主題として行う最後の大会であり、WEB形式で参加する中体連関係者の現場の意見を、分科会や講演会の中で取り上げ、議論を重ねることを通して、運動部活動のあるべき姿や中学生の「生きる力」を育む運動部活動の在り方を明確にしていく機会にもしたいと考えています。

結びに、コロナウイルス感染の終息に向けた「新しい生活様式」の中ではありますが、本研究大会が、全国からWEB形式にて参加いただく皆様のご協力や充実した協議によって公益財団法人日本中学校体育連盟および関係する皆様方のこれからの活動のさらなる躍進につながることを祈念いたしまして、基調報告とさせていただきます。